

第54回新潟大腸肛門病研究会

日時 平成16年12月11日(土)
午後3時～5時35分
会場 新潟グランドホテル
5階 常磐の間

I. 一般演題

1 続発性アミロイドーシスとサイトメガロウィルス感染を合併したNSAIDs起因性腸炎の1例

須田 和敬・須田 武保・高久 秀哉
牧野 成人・本間 英之・大竹 雅広
味岡 洋一*

日本歯科大学新潟歯学部外科
新潟大学大学院分子・病態病理学分野*

症例は87歳,女性.

【家族歴】特記事項なし.

【既往歴】慢性関節リウマチの疼痛に対しNSAIDs製剤を使用.

【現病歴】下血・腹満を主訴に当院内科緊急入院. CT上多量のフリーエアを認め,消化管穿孔による汎発性腹膜炎の診断で当科転科し緊急手術施行. 術中所見では結腸,直腸に5カ所の穿孔を認め,左半結腸切除,人工肛門造設術を施行した. 病理学的検索では続発性アミロイドーシスとサイトメガロウィルス感染を合併したNSAIDs起因性腸炎が最も疑われた.

NSAIDs長期使用例では,本症例の様な病態を常に念頭に置く必要があると思われた.

2 腸重積をきたし肛門外に脱出したS状結腸癌の1例

清水 大喜・外山 美沙・小海 秀央
矢島 和人・桑原 明史・谷 達夫
飯合 恒夫・岡本 春彦・畠山 勝義
新潟大学大学院消化器・一般外科学分野

3 当科における直腸脱に対する術式選択

野上 仁・松尾 仁之・小林 孝
新潟臨港総合病院外科

【はじめに】当科における直腸脱の治療成績と手術術式の選択を紹介する.

【対象】2000年から2004年までの5年間に当科で直腸脱手術を受けた22例(男性7人,女性15人).

【結果】手術回数は全部で25回. 平均年齢は73.12歳. 観察期間は14.04ヶ月. 術式はGant-三輪, Thiershe法が15回, Delorme法が5回, Altemeier法が2回. Wells法が3回. Gant-三輪, Thiershe法の再発は15例中6例, 40%. そのうち再手術を受けたのは3例, 20%であった. Delorme法, Altemeier法, Wells法では再発を認めなかった.

【術式選択】当科では初発例にはDelorme法, 再発例にはWells法を基本方針としている. 脱出長が長く, 腫大の強いものにはAltemeier法を, 全身状態不良例にはGant-三輪, Thiershe法を選択している.

4 下部進行直腸癌に対する側方郭清の功罪について

丸山 聡・瀧井 康公・藪崎 裕
土屋 嘉昭・佐藤 信昭・梨本 篤
田中 乙雄・佐野 宗明

県立がんセンター新潟病院外科

1990年から2001年までに根治手術がなされたRb, Pの進行直腸癌(Dukes B, C)127例を対象とし, 側方郭清施行91例と非施行36例の周術期問題点と遠隔成績を比較検討した.

【結果】背景因子として側方郭清施行群は非施行群と比べて年齢が若く, 腫瘍径が大きく, リンパ節転移が高度であるという有意な偏りがあった. 手術時間は郭清群で有意に長かった. 術後合併症は郭清群で有意に多く認めた. 5年生存率(5YDRS)は郭清群73.8%, 非郭清群65.7%で, 有意差はなかった. Dukes Bの5YDRSは郭清群96.9%, 非郭清群77.1%で, 郭清群で良好であっ